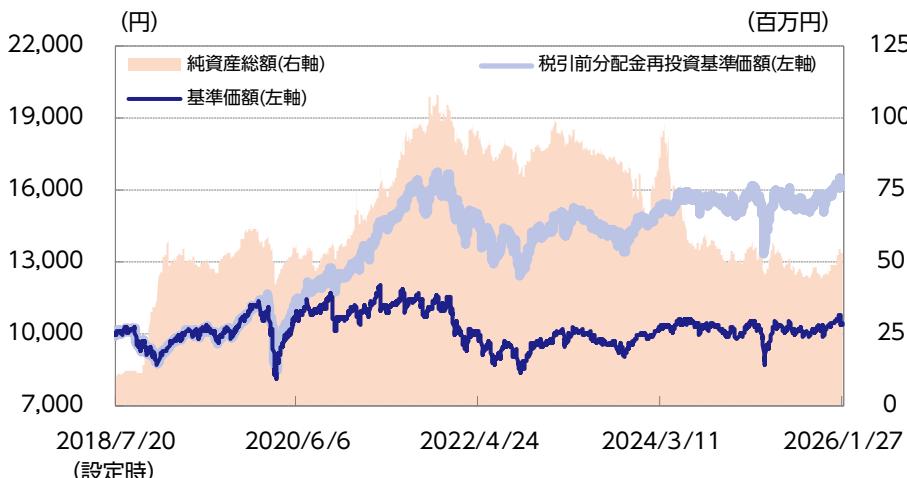


## 運用実績 為替ヘッジあり

### 基準価額・純資産の推移



### 基準価額および純資産総額

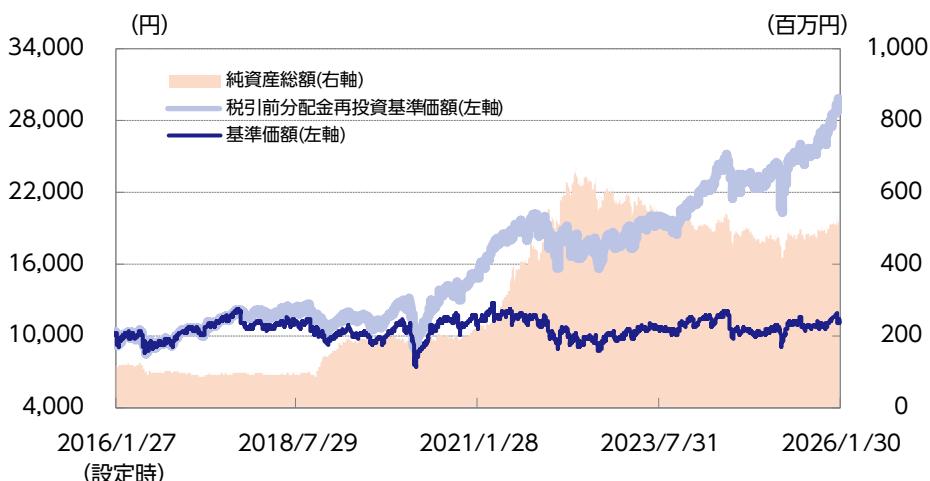
基準価額	10,362円
前月末比	90円
純資産総額	
第24期	2024年07月
第25期	2024年10月
第26期	2025年01月
第27期	2025年04月
第28期	2025年07月
第29期	2025年10月
第30期	2026年01月
直近1年間累計	
設定来累計額	4,900円

### 基準価額の騰落率 (税引前分配金再投資)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	0.9%	3.1%	4.3%	2.2%	12.7%	61.5%

## 運用実績 為替ヘッジなし

### 基準価額・純資産の推移



### 基準価額および純資産総額

基準価額	11,123円
前月末比	279円
純資産総額	
第34期	2024年07月
第35期	2024年10月
第36期	2025年01月
第37期	2025年04月
第38期	2025年07月
第39期	2025年10月
第40期	2026年01月
直近1年間累計	
設定来累計額	10,800円

### 基準価額の騰落率 (税引前分配金再投資)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	2.5%	8.8%	16.7%	24.6%	64.6%	191.7%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※基準価額は信託報酬控除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金（税引前）を再投資したものとして計算しております。なお、信託報酬率は「手続・手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります（個人受益者の場合）。

※ファンド騰落率は分配金（税引前）を再投資したものとして計算しており、実際の投資家利回りとは異なります。

※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配金込みで算出しています。

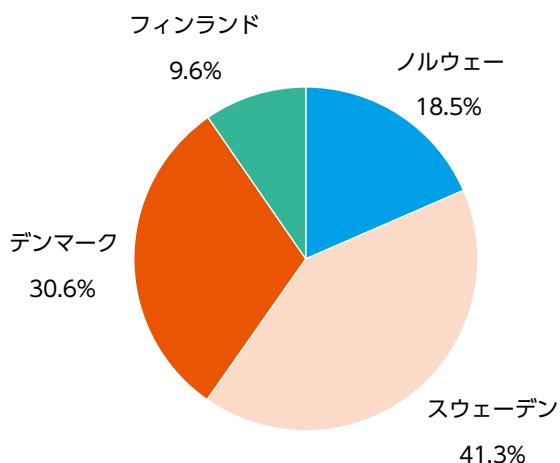
## マザーファンドの状況

## 組入比率

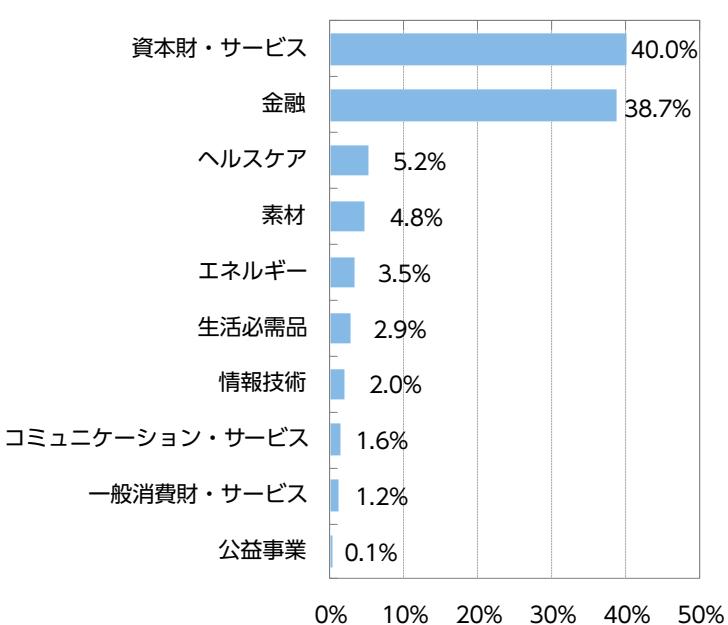
株式等	93.2%
現金、その他	6.8%

※対純資産総額比

## 国・地域別組入比率



## 業種別組入比率



※国・地域はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。以下同じです。

※対組入株式等評価額比

※業種はGICS分類（セクター）によるものです。なお、GICSに関する知的財産所有権はS&amp;PおよびMSCI Inc.に帰属します。以下同じです。

※対組入株式等評価額比

## 組入上位10銘柄

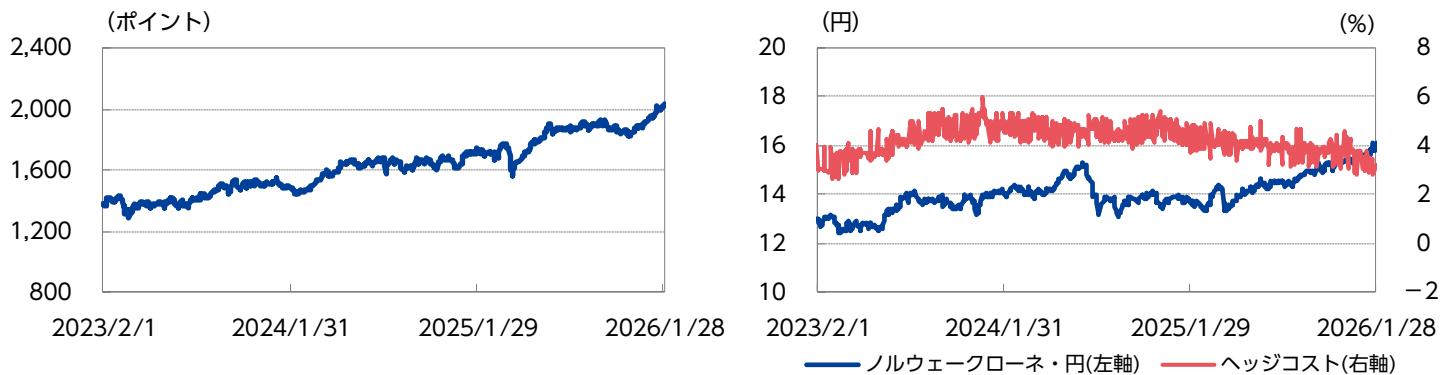
(銘柄数: 34)

	銘柄	業種	国・地域	比率
1	ノルデア・バンク	金融	フィンランド	9.6%
2	DSV	資本財・サービス	デンマーク	8.1%
3	スペンスカ・ハンデルスバンケン	金融	スウェーデン	7.8%
4	アバンザ・バンク・ホールディング	金融	スウェーデン	7.6%
5	アトラスコプロ	資本財・サービス	スウェーデン	6.3%
6	ヤンシーデ・フォシクリン	金融	ノルウェー	5.8%
7	リフコ	資本財・サービス	スウェーデン	4.6%
8	ダンスケ銀行	金融	デンマーク	4.1%
9	トリグベスタ	金融	デンマーク	3.8%
10	ノボネシス（ノボザイムズ）B	素材	デンマーク	3.6%

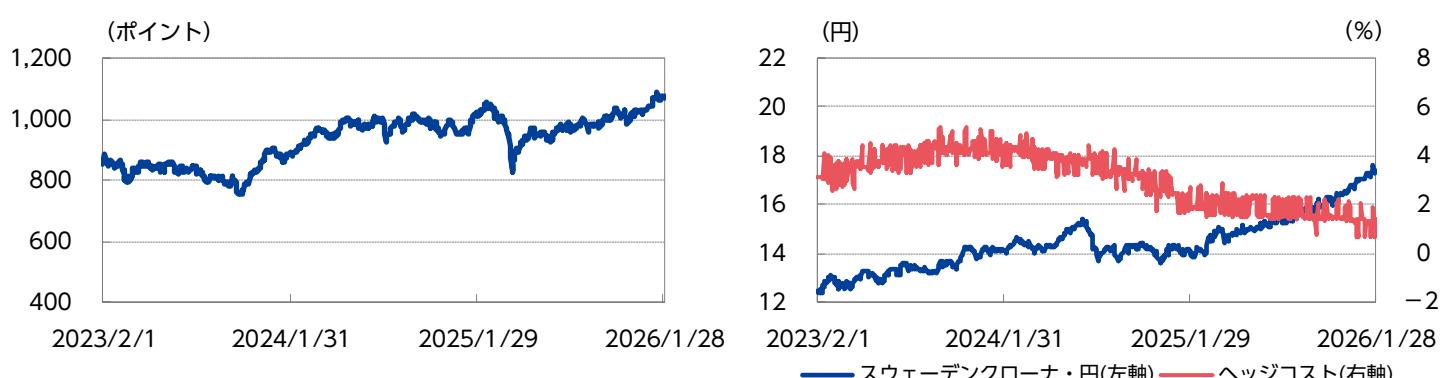
※対組入株式等評価額比

## マーケットの状況

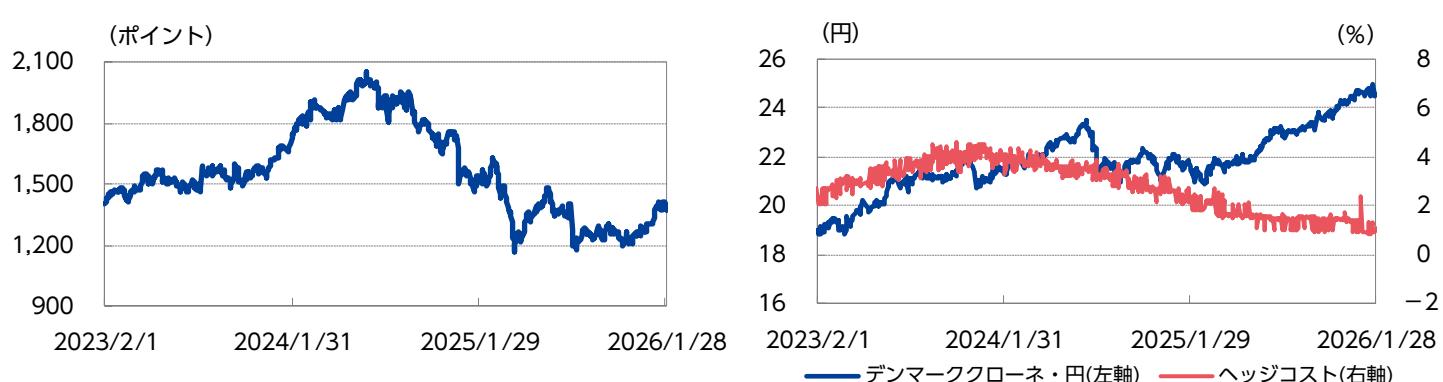
## ノルウェー 株式（オスロ全株指数）・為替（ノルウェークローネ・円レート）の推移



## スウェーデン 株式（OMXストックホルム全株指数）・為替（スウェーデンクローナ・円レート）の推移



## デンマーク 株式（OMXコペンハーゲン指数）・為替（デンマーククローネ・円レート）の推移



※株式指数の推移はブルームバーグのデータをもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。データ期間は直近3年間です。

※為替レートは対顧客電信売買相場仲値のデータをもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。データ期間は直近3年間です。

※為替ヘッジコストは、各通貨・円のスポットレートと1カ月物フォワードレート等を用いて計算した推計値(年率換算)であり、実際のファンドの数値とは異なります。マイナスの場合には為替取引プレミアムとなります。

## 当月の市況動向

当月の北欧（ノルウェー・スウェーデン・デンマーク）株式市場は、地政学リスクの上昇などを背景とした金や銀などの商品市況の上昇や、北欧企業の良好な業績動向などから、上昇しました。

前半は、肥満症治療薬の売り上げに対する期待を受けたノボ・ノルディスクの株価上昇が大きく寄与しました。また、トランプ米政権によるベネズエラへの軍事介入やデンマーク自治領であるグリーンランドの領有権を巡る米欧対立など地政学リスクの上昇、人工知能（AI）関連のインフラ需要などから銀や銅など商品市況の上昇を背景に資源株や防衛株も物色され、上昇する展開となりました。

後半は、グリーンランドを巡る米欧対立が一時深まり、米国がデンマーク・スウェーデン・ノルウェーを含む欧州8カ国への追加関税を示唆するなど米国との関係悪化が懸念されたことや、日本の金利上昇を発端とした世界的な長期金利の上昇から調整する局面がありました。結局、欧州諸国への追加関税が見送られたことは好感されたものの、消費関連企業などでは低調な業績も目立ち、上げ幅をやや縮めて月末を迎えるました。

為替は、日本の長期金利の急上昇からスウェーデンクローナやノルウェークローネに対して円安となりました。

## ファンドの状況

当月の基準価額は、「為替ヘッジあり」、「為替ヘッジなし」とともに上昇となりました。

個別銘柄では、スウェーデンの産業機械メーカーであるアトラスコプコが最もプラスに寄与しました。AIやデータセンター向けのインフラ需要拡大の恩恵を受けられるとの見方などから、株価が上昇しました。

業種別では、「資本財・サービス」が最もプラスに寄与しました。上記のアトラスコプコや、スウェーデンの鉱山および建設機器メーカーが2025年10-12月期の業績における受注拡大を好感して株価が上昇し、当業種の上昇に寄与しました。

当月末現在において、業種別での組入上位は「資本財・サービス」「金融」「ヘルスケア」となっています。

個別銘柄については、組入上位10銘柄の顔ぶれは「高い技術」、「優れたデザイン」、「独自のビジネスモデル」などを武器にグローバルで活躍する優れた経営効率と高い利益成長力を持った銘柄となっています。

## 今後の見通しと運用方針

一部でA.I.バブルへの警戒は継続しているものの、A.I.関連の投資が景気を下支えしていることや、技術革新のスピードと大手テクノロジー企業の資金創出力からA.I.を主軸とした新たな産業革命は進行していくことが見込まれる中、米利下げが今後も継続する見通しであることも世界株式市場を下支えすると見込まれます。引き続き北欧においては、欧州全体の財政拡張や景気サイクル改善への期待が株式市場を下支えすると見込まれます。企業業績動向や株式のバリュエーション（企業の利益・資産など、本来の企業価値と比較して、相対的な株価の割高・割安を判断する指標）に留意しつつ、個々の企業業績を中心としたファンダメンタルズ（基礎的条件）に着目した物色を冷静に行う局面と想定しています。そのような中、業績の安定性が非常に高くクオリティーが高いとみなされている北欧株は投資妙味があるとみており、特徴ある北欧企業など中長期的な目線で魅力のある企業の成長力をしっかりと冷静に見極めて投資することが重要と考えています。

当ファンドの主要投資対象国であるノルウェー・スウェーデン・デンマークの北欧3カ国は、人口や経済規模を示す国内総生産（GDP）でみると決して大国ではありません。しかし、信用格付は最上位のAAAを維持しており、生産性を示す一人当たりGDPでは世界でもトップクラスとなっています。さらに、北欧は気候政策の先導役であり、環境規制が最も先進的で脱炭素化において他を大きく先行しています。そのため、気候変動を巡る競争は北欧への関心を高める可能性があるとみています。また、北欧企業の経営効率を示す自己資本利益率（ROE）は、欧州企業の平均を上回っており、世界的に活躍する優良企業が多数存在します。北欧企業の製品やサービスは、「高い技術」、「優れたデザイン」、「独自のビジネスモデル」を武器に、商品・サービスの差別化を図り世界的に展開しており、その優れたデザインやコンセプトで日本を含め世界中で人気を博しています。その北欧企業の優位性の源泉をしっかりと考慮して、今後の株価上昇に対する確信度の高い銘柄を厳選して投資し、信託財産の成長を図ることを目標に運用を行ってまいります。

## 運用体制

原則作成基準日時点での情報に基づきます。

2025年12月30日時点

運用責任者	三国 公靖※
経験年数	36年
運用担当部	株式運用部

※当ファンドの運用は三国公靖氏を運用責任者とするチームにて運営しております。

## ファンドの特色

- ①北欧各国の株式に投資を行います。
- ②徹底した調査・分析を通じて、株価上昇が期待される銘柄に厳選して投資を行います。
- ③「為替ヘッジあり」と「為替ヘッジなし」の2つのファンドから選択いただけます。
- ④年4回決算を行います。

## 投資リスク

※ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

## 基準価額の変動要因

- ファンド（マザーファンドを含みます）は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。

## 主な変動要因

株式投資リスク	株式は国内および国際的な景気、経済、社会情勢の変化等の影響を受け、また業績悪化（倒産に至る場合も含む）等により、価格が下落することがあります。
為替変動リスク	〈為替ヘッジあり〉 外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替ヘッジを完全に行うことができるとは限らないため、外貨の為替変動の影響を受ける場合があります。また、円の金利が為替ヘッジを行う当該外貨の金利より低い場合などには、ヘッジコストが発生することがあります。 〈為替ヘッジなし〉 外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を直接的に受けます。一般に円高局面ではファンドの資産価値が減少します。
カントリーリスク	外国の資産に投資するため、各国の政治・経済情勢、外国為替規制、資本規制等による影響を受け、ファンドの資産価値が減少する可能性があります。
流動性リスク	市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予期される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。

！ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

## その他の留意点

- ファンドは、多量の換金の申込みが発生し換金代金を短期間で手当てる必要が生じた場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等には、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引ができるリスク、取引量が限定されるリスク等が顕在します。
- これらにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金の申込みの受付けを中止する、また既に受付けた換金の申込みの受付けを取消しする可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性などがあります。

### 分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

ファンドで分配金が支払われるイメージ

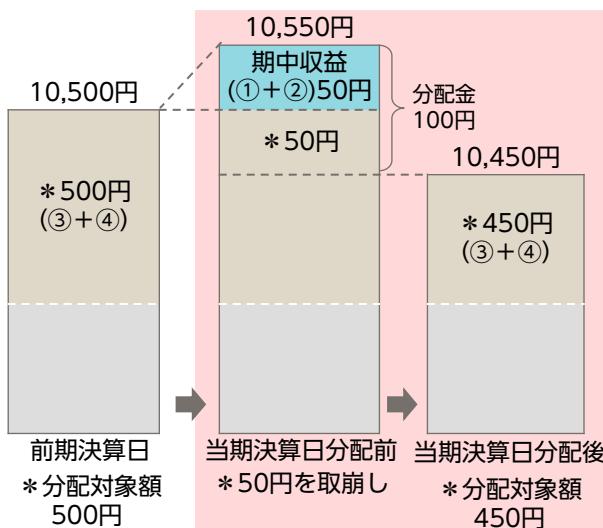
ファンドの信託財産

分配金

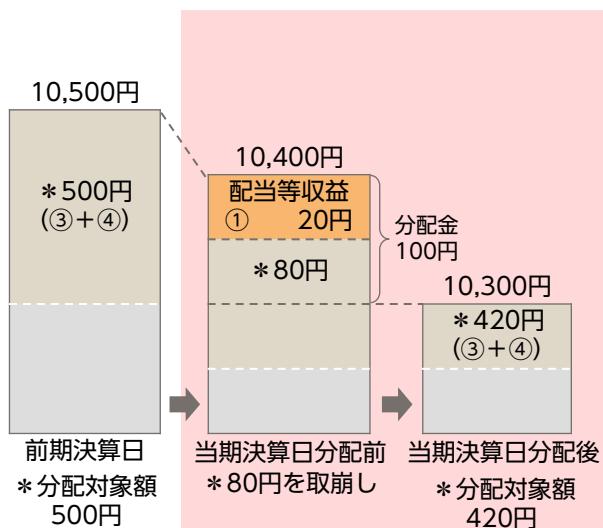
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

#### 計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合



\*分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、収益分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

分配準備積立金：期中収益（①および②）のうち、当期の分配金として支払われず信託財産に留保された金額をいい、次期以降の分配金の支払いにあてるすることができます。

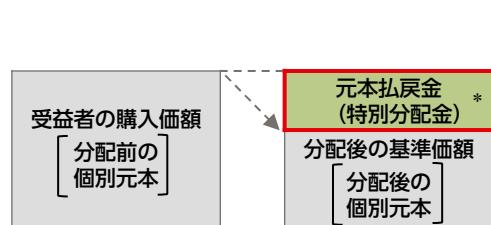
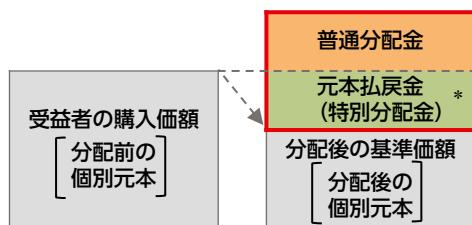
収益調整金：追加型株式投資信託において追加設定が行われることによって、既存の受益者の分配対象額が減らないようにするために設けられた勘定です。

！上記はイメージ図であり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご留意ください。

- 受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる分配金の一部または全部が実質的に元本の一部戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部戻しに相当する場合

分配金の全部が元本の一部戻しに相当する場合



\*実質的に元本の一部戻しに相当する元本戻し金（特別分配金）が支払われると、その金額だけ個別元本が減少します。  
また、元本戻し金（特別分配金）部分は非課税扱いとなります。

普通分配金：個別元本（受益者のファンドの購入価額）を上回る部分からの分配金です。

元本戻し金（特別分配金）：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の受益者の個別元本は、元本戻し金（特別分配金）の額だけ減少します。

※普通分配金に対する課税については、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

## 手続・手数料等

※基準価額は便宜上1万口当たりに換算した価額で表示されます。

## お申込みメモ

購入時	購入単位	販売会社が定める単位とします。
	購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金時	換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
	換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として6営業日目からお支払いします。
申込について	申込締切時間	原則として毎営業日の午後3時30分までに販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。ただし、申込締切時間は販売会社によって異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にご確認ください。
	申込不可日	オスロ証券取引所、ストックホルム証券取引所、コペンハーゲン証券取引所のいずれかの休業日と同日の場合は、購入・換金・スイッチングの申込みの受付けを行いません。 海外休日カレンダー： <a href="https://www.nam.co.jp/fundinfo/calendar/holiday.html#hdg25">https://www.nam.co.jp/fundinfo/calendar/holiday.html#hdg25</a>
決算・分配	決算日	1・4・7・10月の各20日（該当日が休業日の場合は翌営業日）
	収益分配	年4回の毎決算日に、収益分配方針に基づき収益分配を行います。
その他	信託期間	「為替ヘッジあり」 2028年7月20日まで（設定日：2018年7月20日） 「為替ヘッジなし」 2028年7月20日まで（設定日：2016年1月27日）
	繰上償還	委託会社はあらかじめ受益者に書面により通知する等の手続きを経て、ファンドを繰上償還させることができます。
	課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の対象となりますですが、いずれのファンドも、NISAの対象ではありません。
	スイッチング	「為替ヘッジあり」と「為替ヘッジなし」との間でスイッチングが可能です。スイッチングの際には、購入時と同様に販売会社が定める購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時と同様に税金がかかる場合があります。 ※ 販売会社によっては、どちらか一方のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングの取扱いを行わない場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。

！ ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

## ファンドの費用

## 投資者が直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に <b>3.3%（税抜3.0%）を上限</b> として販売会社が独自に定める率をかけた額とします。 ※料率は変更となる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。
換金時	信託財産留保額	ありません。

## 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

毎 日	運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの純資産総額に <b>年率1.815%（税抜1.65%）</b> をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。
	監査費用	ファンドの純資産総額に年率0.011%（税抜0.01%）をかけた額を上限とし、ファンドからご負担いただきます。
随時	その他の費用・手数料	組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用および借入金の利息等はファンドからご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。

!  
当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。

!  
詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

## 税金

分配時の普通分配金、換金（解約）時および償還時の差益（譲渡益）に対して、所得税および地方税がかかります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

- ・外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が投資信託説明書（交付目論見書）の記載と異なる場合があります。
- ・法人の場合は上記とは異なります。
- ・税金の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社【ファンドの運用の指図を行います】	ファンドに関するお問合せ先
ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者登録番号 関東財務局長（金商）第369号 加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	ニッセイアセットマネジメント株式会社 コールセンター 0120-762-506 9:00～17:00（土日祝日・年末年始を除く） ホームページ <a href="https://www.nam.co.jp/">https://www.nam.co.jp/</a>
受託会社【ファンドの財産の保管および管理を行います】	
三菱UFJ信託銀行株式会社	

## ご留意いただきたい事項

- ①投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動し、運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなります。投資元本および利回りが保証された商品ではありません。
- ②当資料はニッセイアセットマネジメントが作成したものです。ご購入に際しては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等（目論見書補完書面を含む）の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- ③投資信託は、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金による支払いの対象にはなりません。
- ④投資信託のお取引に関しては、クーリング・オフ（金融商品取引法第37条の6の規定）の適用はありません。
- ⑤当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、資金動向、市況動向等によっては方針通りの運用ができない場合があります。
- ⑥当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- ⑦当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- ⑧当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- ⑨当資料の内容は原則作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

## 取扱販売会社一覧

※販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によっては、新規のお申込みを停止している場合もあります。

詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問合せください。

取扱販売会社名	金融商品取引業者	登録金融機関	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社SBI証券	○		関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
光世証券株式会社	○		近畿財務局長(金商)第14号	○			
GMOクリック証券株式会社(※1)	○		関東財務局長(金商)第77号	○		○	○
北洋証券株式会社	○		北海道財務局長(金商)第1号	○			
松井証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社(※1)	○		関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
三菱UFJ eスマート証券株式会社(※1)	○		関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
moomo証券株式会社(※1)	○		関東財務局長(金商)第3335号	○	○		
めぶき証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第1771号	○			
楽天証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
株式会社イオン銀行（委託金融商品取引業者マネックス証券株式会社）(※1)		○	関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社SBI新生銀行（委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券）		○	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社SBI新生銀行（委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）(※1)		○	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社北洋銀行		○	北海道財務局長(登金)第3号	○		○	
株式会社北洋銀行（委託金融商品取引業者 北洋証券株式会社）		○	北海道財務局長(登金)第3号	○		○	

(※1)「為替ヘッジなし」のみのお取扱いとなります。